

薩兵府城を引払い加來刑部少輔勵之事

天正十五年三月上旬、開白公の先陣既に着岸、其催しなかりければ、豊州在陣之薩兵、差て仕出したる事もなく、敵城攻あぐんで居たる折からなれば、取囲まれなば犬敗北なるべしと、嶋津家久各所の陣を相収めて諸軍を催し、同八日悉く豊府を引取ける。ここに由原八幡の神職加來刑部少輔鎮綱といふ者、武術を好み、殊に真心の人物なりしが宗麟よりかねて密計を含め、嶋津へ降り、家久の手に属し、寄々丹生島へ内通しけるは、此度引払いのしんがりを望みければ、家久是を免じければ、ひそかに勢を集め・由原の山に伏置不意に起して戦いけるは究竟の兵貳拾四人討取り、府内をさしてひきとりけり。

西治録 天正15年